

平成 17 年 3 月 11 日

各 位

会 社 名 **MORESCO**

(登記社名 : 株式会社松村石油研究所)

代表者の役職名 取締役社長 中野正徳

(J A S D A Q コード番号 5018)

問い合わせ先 広報室長 長尾光俊

電話番号 078 - 303 - 9058

MORESCO 中期経営計画について

この度、当社グループの中期経営計画のローリングを実施し、2005年度から2007年度までの3年間を対象とする中期経営計画を策定いたしましたので、その概要についてお知らせいたします。

「中期経営ビジョン」「中期経営方針」につきましては、2003年度に掲げたビジョン、方針を、2004年度に引き続き踏襲し、3年目である2005年度はその総仕上げを行なうこととしております。

尚、2006年度には、抜本的な見直しを行い、新たな中期経営ビジョン、中期経営方針をもってスタートする予定であります。

1. 中期経営ビジョン

「小さくとも世界にきらりと光を放つモレスコグループ」

- 環境にやさしいモノ作りとサービス -

2. 中期経営方針

- 2.1 技術力とノウハウの結集により特定分野でのシェア No.1 を目指す
- 2.2 次代の柱となる付加価値の高い新事業を創造する
- 2.3 国際市場での供給と調達をダイナミックに展開する
- 2.4 国内外グループの連携を強化する
- 2.5 生産プロセスの見直しと原価管理の徹底により大幅なコスト低減を実現する
- 2.6 人事・教育の充実によりアグレッシブな人材を育成する
- 2.7 情報の発信・収集・解析の高度化を図る
- 2.8 財務体質を強化する

3. 中期経営計画

3.1 中期経営計画策定の考え方

当社事業を取り巻く環境は、1)国内自動車及び関連部品産業、鉄鋼、衛生材製品、化粧品など堅調に推移、2)中国を中心とするアジア市場の成長持続、3)原油・ナフサ価格の動向による原材料価格の高止まり基調などと捉えております。

特に原材料価格の動向は、既存製品の収益に少なからず影響いたします。当社といたしましては、ユーザー各社のご理解のもと製品価格への反映を図るとともに、引き続き厳しい経費削減努力、「高付加価値製品の開発販売」により、収益体質の維持、向上を目指してまいります。

3.2 売上高、利益計画（連結） [単位：百万円/年]

	2004年度実績	2005年度	2006年度	2007年度
売上高	9,898	11,130	11,970	12,850
営業利益	739	800	910	1,140
経常利益	706	800	920	1,160
当期純利益	440	490	570	720
経常利益率	7.1%	7.2%	7.7%	9.0%

注1) 2004年度実績は当中期経営計画発表日現在の見込み値です。

注2) 当利益計画は、2005年度上期平均原油価格(ドル/バレル)38ドル/バレル、下期以降平均原油価格33ドル/バレル、年平均為替レート105円/ドルを前提に策定しております。

3.3 部門別売上高の計画（連結） [単位：百万円/年]

	2004年度実績	2005年度	2006年度	2007年度
化学品事業	9,835	11,067	11,907	12,787
素材部門	(2,074)	(2,315)	(2,370)	(2,520)
特殊潤滑油部門	(3,856)	(4,195)	(4,620)	(4,930)
合成潤滑油部門	(886)	(995)	(1,070)	(1,140)
ホットメット接着剤部門	(2,143)	(2,465)	(2,640)	(2,810)
その他	(877)	(1,097)	(1,208)	(1,387)
賃貸ビル事業	63	63	63	63
合計	9,898	11,130	11,970	12,850

4. 重点事業戦略（概要）

4.1 素材部門

化粧品などの原料となっている、流動パラフィンの業界シェアNO.1を維持するとともに、「流動パラフィンの用途開発」に加え、「スルホネートに続く高機能添加剤の開発」を推進いたします。一方、更なる市場の供給要請に応えるべく、設備能力の増強および合理化を目的とした設備投資により、市場への安定供給を確保するとともに生産コストの改善に取り組んでまいります。

4.2 特殊潤滑油部門

国内自動車生産はほぼ横ばいが見込まれます。またその関連部品産業はアジア・欧米向けの輸出好調から引き続き高水準の需要が予測されます。難燃性作動液、ダイカスト用潤滑剤等の水系潤滑剤の増販と、「環境対応商品の開発販売強化」による国内シェアアップを図ると同時に、タイおよび中国の生産拠点と連携したアジア市場への積極展開によって、事業を拡大してまいります。

4.3 合成潤滑油部門

自動車エンジン周りの高温環境で使用されるグリス基材としての合成潤滑油は、日本メーカー向けから欧米メーカー向けへと広がりを見せております。また、使用温度のワイドレンジ化の要請に対して新たに開発した合成油をもって、家電、鉄道車両用グリスなどの新用途の開発に取り組みます。ハードディスク用途においては3.5インチ主要メーカーでの採用機種数の拡大を図ると共に、今後の成長が期待されるモバイルやエンターテインメント向けの2.5インチ以下の小型ドライブ用に関して新ループの開発を推進してまいります。

4.4 ホットメルト接着剤部門

主力である衛生材用途製品では「パッケージレス製品」によりシェアを確保しつつ、ラベル等の包装資材用途に対して「高機能粘着材」の開発・販売を強化して事業規模の拡大を図ります。また中国の生産拠点を有効活用して国内工場の生産効率の向上を図り、収益性の向上に取り組んでまいります。

5. 研究開発の重点

研究開発の重点を「環境関連分野」と「情報関連分野」に置き、市場の成長性と付加価値の高い新製品開発に取り組んでまいります。

環境関連におきましては、当社の主力である水系製品を環境対応型へとモデルチェンジしてまいります。使用済み難燃性作動液からの主要原料の回収・再利用、水溶性切削油ではメンテナンスの容易なロングライフ型、ダイキャスト用の潤滑剤は少量で高性能を発揮させるなどのコンセプトを軸に、新製品開発を進めております。

光触媒を応用した殺菌装置は、鉢花や野菜などの水耕栽培において病害防除の効果が確認でき、試売へと進展しております。また、二次廃棄物の少ない排水処理装置・システムの開発に関しましては、各種酸化剤や紫外線を利用した水浄化装置を展開しております。

情報関連は、今後の高成長が期待される2.5インチ以下の小型ドライブに適応する潤滑剤、および現在の磁気記録システムでは対応できない時代を想定した次々世代(テラビット級)ハードディスクに適用できる潤滑剤の開発にも着手しております。Cu配線半導体の製造プロセスで不可欠な、「信頼性の高いCMPスラリー」は海外の研究機関との共同研究を終え、デバイスメーカーでの実機評価に向けての製品開発を進めております。

以上